

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター（サントミュージゼ）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,277	(千円)
	公 演 事 業	24,423 (千円)
	人 材 養 成 事 業	541 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,313 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・アーティストによる滞在制作型公演 (コンテンポラリーダンス)	2021年7月9日ほか	演目：①『いいかえると』、②『無言歌～カラダとウタウ～』 出演：島地保武・酒井はな ほか	目標値	120
		上田市交流文化芸術センター(大スタジオ)		実績値	276 ※
2	レジデント・アーティストによる リサイタル・シリーズ (全6公演)	2021年5月8日ほか	出演：金子三勇士、伊藤文乃、高橋多佳子、仲道郁代、大萩康司、塚越慎子、松本蘭、酒井有彩 ほか	目標値	1,200
		上田市交流文化芸術センター(小ホール)ほか		実績値	1,129 ※
3	群馬交響楽団 上田定期演奏会 -2021春- 飯森範親指揮 マーラー/交響曲第5番 嬰ハ短調	2021年5月23日ほか	指揮：飯森範親 ピアノ：三原未紗子 曲目：マーラー/交響曲 第5番ほか	目標値	800
		上田市交流文化芸術センター(大ホール)ほか		実績値	464 ※
4	群馬交響楽団 上田定期演奏会 -2022春- 小林研一郎指揮 チャイコフスキープログラム	2022年3月20日ほか	指揮：小林研一郎 チェロ：宮田大 曲目：チャイコフスキー/交響曲 第5番ほか	目標値	800
		上田市交流文化芸術センター(大ホール)ほか		実績値	922
5	Chopin The Series (全3公演)	2021年8月20日ほか	出演：高橋多佳子 オール・ショパン・プログラム 曲目：ピアノ・ソナタ 第3番 ほか	目標値	600
		上田市交流文化芸術センター(小ホール)		実績値	514 ※
6	劇場間連携事業「かがみまど とびら」《アートで地域 と子どもを育む①》	2021年8月1日	作・演出：藤田貴大 出演：伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川陽子	目標値	120
		上田市交流文化芸術センター(大ホール舞台)		実績値	148 ※
7	劇場間連携事業「めにみえない みみにしたい」《アートで地域 と子どもを育む②》	2021年9月5日	作・演出：藤田貴大 出演：伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川陽子	目標値	120
		上田市交流文化芸術センター(大ホール舞台)		実績値	141 ※
8	新国立劇場 バレエ公演「白鳥の湖」《アートで地域 と子どもを育む③》	2021年11月7日ほか	演目：「白鳥の湖」(新制作) 出演：米沢唯、福岡雄大 ほか 管弦楽：東京フィル	目標値	800
		上田市交流文化芸術センター(大ホール)ほか		実績値	788 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座 & 大学や企業と連携した研修プログラム	2021年8月20日ほか	講師：セレノグラフィカ、星乃もと子、上田市交流文化芸術センター舞台スタッフ	目標値	延べ210名(7回)
		上田市交流文化芸術センター(大ホール)ほか		実績値	101名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・アーティスト『岩井秀人』(演劇1年目)による「WS & 公演」	2021年7月3日ほか	構成・演出：岩井秀人 演出助手：岡本昌也 アシスタント：新開麻子	目標値	入場者数：80名・参加者数：60名
		上田市交流文化芸術センター(大スタジオ)		実績値	入場者数：187名・参加者数：延べ153名
2	アーティスト・イン・レジデンス 芸術家ふれあい事業(音楽)	2021年6月1日ほか ※	出演：伊藤文乃、高橋多佳子、大萩康司、塚越慎子、武本和大、松本蘭、酒井有彩	目標値	3,420名 (公演：1,320、クラスコンサート等：2,100)
		市内小学校22校ほか ※		実績値	1,875名 (公演：499、クラスコンサート等：1,376)
3	《平日マチネ》ワンコイン・コンサートシリーズ(全6公演)	2021年4月16日ほか	出演：三原未紗子、津野田圭、高見信行、新居由佳梨、叶澤尚子、南部由貴、岡田奏、泊真美子	目標値	1,800名 (公演：1,680、関連事業120)
		上田市交流文化芸術センター(小ホール)ほか		実績値	1,418名 (公演：1,133、関連事業285) ※

4	マチとつながるプロジェクト① ブラスバンド WS & ライブ	2021年10月3日ほか	出演・講師： BLACK BOTTOM BRASS BAND	目標値	280名 (公演： 250、WS 参加者 30)
		上田市交流文化芸術センター(小ホール)ほか ※		実績値	138名 (公演： 113、WS 参加者 25)
5	マチとつながるプロジェクト② 演劇共同制作事業(仮称)	2021年12月5日ほか ※	出演：一般参加者8名 指導：高山さなえ(演出家)	目標値	入場者： 60名 参加者： 120名 (述べ 数)
		犀の角		実績値	入場者： —名※ 参加者： 延べ48 名
6	高校生と創る『実験的演劇工房(岩崎正裕編)』	2021年12月13日 ほか※	出演：上州市内高校演劇部21名 演出・監修：指導：岩崎正裕 演出補佐：橋本匡市	目標値	入場者： 140名 参加者： 200名 (述べ 数)
		上田市交流文化芸術センター(大スタジオ)		実績値	入場者： 92名 参加者： 延べ168 名
7	姉妹都市交流事業『実験的演劇工房プラス』	2021年8月(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	参加者： 15名(述べ 数)
		豊岡市内ほか		実績値	—名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>○ 地方自治体の文化政策とミッションの整合性</p> <p>上田市直営の文化施設「上田市交流文化芸術センター」では、「第一次上田市総合計画」及び「文化芸術振興基本法」を踏まえた「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の中で、『広域的な文化交流をも視野に入れた新たな拠点づくり』のための重要な役割を担う施設として位置付けられている。</p> <p>その基本構想に基づき、「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ」の実現に向けて『育成』を基本理念に「芸術的価値」「地域的価値」「社会的価値」「経済的価値」の4つの価値を生み出していくことを目標とするミッションを設定。</p> <p>劇場・音楽堂が地域の一員となることで、アートと地域が共に持続的な成長していくことを目指した。</p> <p>○ 施設の強み・特色・特徴的な取り組み</p> <p>直営館として、まちづくり、観光、教育、福祉、医療などの様々な分野と連携した事業を展開。「劇場の好循環」を「地域の好循環」へと発展される活動が、社会的役割（ミッション）の達成と基本理念の実現へつながることから、市の行政施策と直結した劇場として役割を果たしている。</p> <p>○ 計画変更の事象と要因</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、県外の高校生との演劇を通じた交流事業『姉妹都市交流事業』が中止に。その他の事業についても客席数の制限や、学校でのアウトリーチ事業『クラスコンサート』の一部中止など、計画の変更を余儀なくされた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>『育成』を理念に掲げた劇場として、平成 26 年 10 月の開館以来、実演芸術家とのネットワークや企画・制作能力を活用した事業に取り組み、その活動の継続が地域の劇場として認知度を高め、また、社会的役割への期待を高めている。</p> <p>○ 鑑賞機会の拡大</p> <p>新国立劇場や群馬交響楽団との提携によって、地域のニーズに応えた国内の優れた舞台芸術を鑑賞できる機会を継続的に提供している。</p> <p>○ 教育機関との連携及び青少年の育成への取り組み</p> <p>上田市教育委員会と連携し、アウトリーチ事業『クラスコンサート』を実施。間近でプロの芸術家の実演に触れることにより児童の感性や想像力、人間性やコミュニケーション能力を育む事業として、令和 3 年度は上田市内の小学校全 25 校中 22 校で 38 回のコンサートを実施。1,376 名の児童に対してクラシック音楽の生演奏を届けることができた。</p> <p>また『実験的演劇工房』では、高校生が一つの作品創りに取り組むことで、参加者同士のコミュニケーションが生まれ、学校や学年を超えた交流が育まれた。演劇を通じて様々な人と出会い、表現活動を行うことの楽しさや素晴らしさを感じてもらう機会として、社会的役割を果たしている。</p> <p>○ ステークホルダーからの期待やニーズの把握</p> <p>観客に対するアンケート調査を継続的に全主催事業で実施する他、平成 30 年度には外部の調査機関に開館以降の「事業・運営評価調査」を委託。来場者アンケートに加え、アウトリーチ担当教員、貸館利用者に対するグループインタビューや、経済波及効果及びパブリシティ効果の分析が行われ、その中で「地域の特性や市民ニーズにあわせた事業や運営が行われ、文化芸術に興味や関心を持ち、積極的に関わる市民が増加していることが明らかになった」と報告された。また「経済波及効果は約 50 億円に達するなど、地域経済の活性化に寄与している」と評価された。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業 「芸術家ふれあい事業」や「提携オーケストラ」、「レジデントカンパニー事業」など、複数年に渡り、継続的に実施している事業を対象とし項目と数値を設定した。

創作機能の強化・・・「自主企画制作公演数」を指標として設定。演劇・ダンス公演は目標 12 回に対して実績 7 回。音楽公演は目標 24 回に対して実績 19 回という結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、演劇事業を中心に年間を通じて自主企画制作の企画が断続的に中止、縮小となったことで達成できなかったと考える。

鑑賞活動の拡大・・・新規来館者数の増加割合を指標として設定。演劇・ダンス公演は目標は 38.0%に対して実績 28.5%。オーケストラ公演は目標 38.8%に対して実績 14.2%という結果となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、公演へ足を運ぶことを控える方が多く存在したことや、アンケートの配布を中止した公演があり、サンプルとなる数値の収集ができなかったことも影響していると考えられる。

鑑賞活動の拡大および社会包摂機能の強化・・・関連事業実施数を指標として設定。目標 34 回に対して実績 22 回という結果となった。一般を対象に予定していた事業が、新型コロナウイルス感染症の影響により参加募集ができず、一部中止となり達成できなかった。

情報発信機能の強化・・・情報誌などの発行数を指標として設定。目標 4 回に対して実績 6 回という結果となった。「シーズン演奏会プログラム」や他館と連携した情報誌「Knot」の作成を予定取り進めた結果、目標達成となった。

人材養成事業 多様なニーズに応えるための「実施プログラム数」と 舞台芸術に興味が無かった人や市外・県外の人でも参加できる「環境づくり」に関する指標を設定。事業の性質上、事業数の増加を狙うのではなく安定的な実施を目指した。(2022 年度までの継続目標)

基礎講座の実施・・・目標を年間 3 プログラムに設定したのに対して、実績は 3 プログラム(うねだアーツ・スタッフ・アカデミー「ダンス」「舞台技術」「レセプション」)を実施し目標を達成。

大学や企業との連携・・・舞台芸術に興味が無かった人や市外・県外の人でも参加できる「環境づくり」に関する指標を設定。連携の目標を年間 3 団体に設定したのに対して実績は 1 団体(長野大学)で目標は未達成。コロナ禍という社会情勢の影響もあり、企業や団体との新規連携が非常に難しい 1 年となった。

実験的なプログラムの創作・・・目標を年間 1 プログラムに設定したのに対して、実績は 2 プログラム(高校生と創る「実験的演劇工房(岩崎正裕編)」・コンテンポラリーダンス公演関連企画)と、コロナ禍で公演が実施できず、実験的な創作を伴う関連プログラムに内容を変更したことで、プログラム数が増え目標達成となった。

普及啓発事業 継続性(枠組み)が確保され、かつ特色のある事業として「芸術家ふれあい事業(音楽)」と「ワンコインマチネシリーズ」を抽出し指標を設定した。

身近な場所での開催(環境づくりの拡大)・・・アウトリーチなど施設外プログラム数を指標として設定。目標 70 回に対して実績 54 回と、新型コロナウイルス感染症の影響で一部事業を縮小したことで目標達成には至らなかったが、コロナ禍においても様々な工夫により、8 割程度のアウトリーチ事業を実施できたことは、大きな成果だと考える。

幅広い世代へのアプローチ(対象の拡大)・・・働く世代をターゲットとしたプログラム数を指標として設定。目標 5 回に対して実績 1 回と、新型コロナウイルス感染症の影響で予定されていたプログラムを一部中止したことが影響した。

シリーズ企画の定期的性の確保(観客の拡大)・・・「定着」を測る指標として複数回来場者数の増加を設定。『リサイタルシリーズ』の目標 36.0%に対して実績は 38.2%。『ワンコインコンサート』の目標 43.0%に対して実績は 48.6%と目標を達成し、コロナ禍においてもシリーズ企画への安定した参加がみられる結果となった。

魅力的なワークショップの実践(発展)・・・アナリーゼワークショップへの参加者数を指標として設定し、目標の 300 名(6 回)に対して実績は 403 名(10 回)と、目標を上回る結果となり、継続により観客が定着、増加する結果となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

音楽公演はおおむね計画通り進めることができたが、滞在制作を伴う演劇・ダンス公演においては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、公演内容の変更や、関連プログラムの見直しを行うなど、計画の変更を余儀なくされる形となった。

また、予定通り実施できた公演についても、客席数の制限を行ったことにより、当初予定されていた集客見込みを下回り、「新国立劇場バレエ公演」などの大ホール公演を中心に、大きな影響が出る結果となった。

人材養成事業

「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座&大学や企業と連携した研修プログラム」においては、舞台芸術との接点が少ない大学生や社会人を対象に、舞台技術の体験講座や、おもてなし講座を開設。参加しやすい環境を整えるよう、事業期間や事業実施時間帯の設定を工夫し、おおむね当初の計画通り実施できた。

普及啓発事業

アーティストが地域に一定期間滞在し、様々な芸術活動を行う「芸術家ふれあい事業」では、市内全 25 校の小学校と 9 つの公民館、そして出演者との日程調整が必要となるが、無理が生じない範囲で効率的なスケジュールを設定した。令和 3 年度も、これまで 7 年間に渡って蓄積してきたノウハウにより、事業内容に合った適切な事業期間を設定し、その中で行われた芸術活動により、期待通りの成果が得られたと考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業費の決算額と要望額の比率(決算額/要望額)が 80%を下回った公演が 8 事業中 5 事業あり、当初の積算額との開きが目立つ結果となった。特に「レジデント・アーティストによるリサイタル・シリーズ」については 65%と、70%を下回った。

要因としては、出演者変更に伴う出演料の減少や、新型コロナウイルス感染症の影響により滞在日程が短縮となったことなどが考えられるが、今後はより精度を上げた積算をするために、新作公演などで経費の積算が難しい場合でも、過去の資料などを基に、可能な限り増減が生じないように努める。

人材養成事業

人材養成事業「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座 & 大学や企業と連携した研修プログラム」においては、入場料収入を見込んでいないため、適切な事業費となるよう支出の抑制に努めた。要望比も 88%と計画通り進んだと考える。

普及啓発事業

要望比が 80%を下回った事業が 6 事業中 4 事業と、当初計画と比較し、大幅な乖離がみられた。これは新型コロナウイルス感染症の影響により事業が一部中止または延期、変更となった影響が大きい、「マチとつながるプロジェクト① ブラスバンド WS & ライブ」については、要望比が 55%と、支出が計画を大きく下回った。

要因としては、当初計画から変更しゲストが出演しない形でのワンマンライブで実施したこと、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定されていた「紅葉まつり」でのステージ演奏ができず、それらの計画変更に伴う支出の減少が影響した。

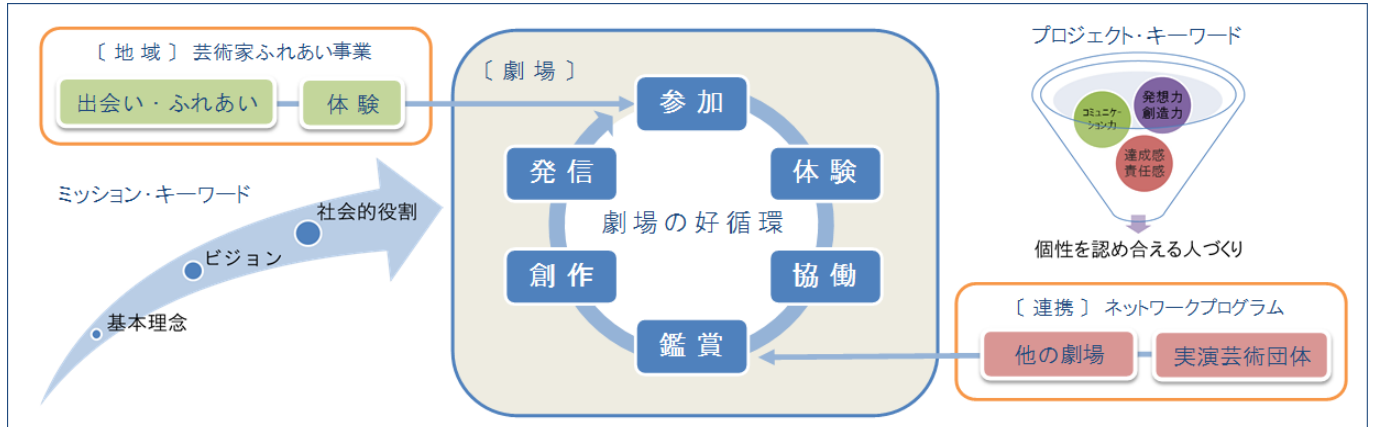
今後、各事業においては、適切な事業費を精度の高い積算で計上するよう留意する。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「育成」を理念に掲げる劇場として、活動の中心となる『芸術家ふれあい事業』から「参加→体験→協働→鑑賞→発信」へと繋がる劇場の好循環を生み出していくための各種事業を実施した。



○ 提携団体との取り組み ～新国立劇場と上田市交流文化芸術センターとの連携・協力に関する協定～

上田市では、新国立劇場と上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ)とのこれまでの交流を踏まえ、令和3年12月21日に新国立劇場運営財団と連携・協力に関する協定を締結した。

開館以来、新国立劇場バレエ団による公演を3回実施しており、今後、新国立劇場との交流をさらに深め、同劇場によるバレエなどの定期的な公演や多様な連携事業、人材交流などを実施していきたいと考えている。

○ 提携団体との取り組み ～群馬交響楽団上田定期演奏会～

プロの常設オーケストラがない長野県で、隣県の群馬県高崎市に拠点を置く「群馬交響楽団」と提携し、令和元年度から「上田定期演奏会」を毎年2回実施。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により1回の実施)

提携により公演だけではなく関連プログラムも充実し、事前に楽団員による「室内楽演奏会」や指揮者、ソリストによる「アナリーゼワークショップ」を令和3年度も継続的实施するなど、定期演奏会プログラムに対する理解が広がり、「有名なオーケストラ」ということだけで足を運ぶのではなく、演奏やプログラムに対しての魅力から聴きに出かけようという、芸術体験の喜びの次の段階へ進む観客が定着した。また近年「同じオーケストラを聴き続ける喜び」を感じる観客が、高崎と上田、両方の定期公演を聴きに出かけるという、新たな動向が見られた。

このようなオーケストラとの提携は、地域の拠点劇場として、優れた舞台芸術に触れる機会を創出するための新たな手法ではないかと考える。

○ アウトリーチ事業「芸術家ふれあい事業」の取り組み

平成26年の開館以来毎年、上田市内全25の小学校で、5年生を対象としたアウトリーチコンサート「クラスコンサート」を継続実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度は3校が辞退。市内22校で38回のコンサートを開催した。

令和元年度までは、音楽室などの身近な空間で、演奏家と近い距離でコミュニケーションを取りながら進めることを大切に作り上げてきたが、令和2年度以降はソーシャルディスタンスの確保や、換気、空間の問題もあり、プログラム内容や会場の変更などにも柔軟に対応しながら実施した。今後もどのような状況下であっても実演芸術を届けられることができるようノウハウを蓄積し、この取り組みを継続して行きたいと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○ ウェブサイトへの公演レポート掲載 ～ 情報の整理・蓄積・発信 ～

公演前のパブリシティ(前パブ)だけではなく、活動終了後のパブリシティ(後パブ)の重要性に注目し、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の各事業において「学ぶ」「体験する」「聴く」「観る」「インタビュー」の5つにジャンル分けした活動レポートをウェブサイトに掲載している。

執筆は外部のライターに委託し、客観的な視点で活動を記録。また、写真はプロのカメラマンに撮影を依頼することで、芸術性の高さや臨場感が失われることなく、その現場が切り取られた写真を掲載している。

このことにより、過去の活動を振り返ることができるだけでなく、次回公演のPRや劇場の活動を広く知っていただく貴重な資料として発信、活用されている。開館以来蓄積されたレポート数は343記事。(令和4年6月30日現在)

○ 劇場の「活動」と「役割」が見える広報 ～ 劇場活動の可視化 ～

広く公開される形で行われる「公演事業」とは異なり、「人材養成事業」や「普及啓発事業」の取り組みの中には、特定の対象に向けてクローズで行われる場合もあり、特にアウトリーチ活動は学校等で実施されるため、劇場の特色として位置付けている事業にも関わらず、その活動が表に見えて来づらい状況があった。

一般の方々にもこのような活動を知っていただくために、見える形で劇場の共有スペースに活動記録やシリーズ企画の写真パネルを展示。チケットの販売につなげる広報だけではなく、限られた予算の中で劇場の「活動」と「役割」を知っていただき、「何をしている劇場なのか」芸術未経験層・無関心層に対して働きかける広報活動を積極的、継続的に行った。

○ ピアニスト 仲道郁代氏の各賞受賞

開館以来継続的にリサイタルを開催している仲道郁代氏が「令和3年度文化庁長官表彰」と「令和3年度文化庁芸術祭『大賞』」をダブル受賞した。

特に「文化庁芸術祭『大賞』」に関しては、令和3年10月23日(土)に東京文化会館小ホールで行われた「The Road to 2027 仲道郁代ピアノ・リサイタル 幻想曲の模様～心のかげらの万華鏡」が受賞対象となっており、同一プログラムの公演が上田市でも開催され、市民がその優れた芸術に触れる機会を得ることができた。

※公演事業2:レジデント・アーティストによるリサイタル・シリーズ(全6公演)に出演

○ 舞踊家 酒井はな氏の「舞踊芸術賞」受賞

Altneu[アルトノイ]の『いいかえると』に出演した舞踊家の酒井はな氏が、令和3年6月1日に舞踊芸術の向上発展に寄与した邦舞及び洋舞の舞踊家に贈られる「第69回舞踊芸術賞」を受賞した。なお、酒井はな氏は平成29年に紫綬褒章を受章している。

※公演事業1:レジデント・アーティストによる滞在制作型公演(コンテンポラリーダンス)に出演

○ これまでの企画・運営に対する受賞実績

地域の劇場としての機能を最大限に発揮した運営が行われていることが以下の受賞により対外的にも評価された。

・令和元年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞

・令和元年度「地域プロモーション大賞」選考委員特別賞『箭内道彦賞』受賞

受賞作品:『Black Bottom Brass Bandと巡る上田～塩田・別所地域 in Autumn』

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当館では開館以来、施設管理及び事業運営を上田市の直営で行っており、経験豊富な専門人材と一般行政職員で構成させる組織であることの特徴を最大限に活かすため、以下の人材育成方針を設定。

(1) 直営館のメリットを活かした取り組み

直営館の運営においては、一般行政職員と専門人材の意思疎通、共通理解が求められる。

当館では、アートマネジメント全体の責任者として、経験豊富なプロデューサーを置き、加えて音楽、演劇・ダンスの各ジャンルにも専門人材を配置。事業運営を行う中で、一般行政職員の育成を図っている。また、専門人材は一般行政職員向けの研修にも参加するなど、行政職員と専門家がそれぞれの得意分野を伸ばしていただくだけではなく、異なる分野の研修会等にも積極的に参加することで相互理解を深めている。

平均勤続年数(定着率)や正規雇用率の面では、市職員として採用されているため、安定した職場環境の中で業務にあたっている。他部署と同様、定期的な人事異動が行われるが、異動した職員は当館での経験を活かし、それぞれの分野で芸術文化を市の施策に取り入れるなど、新たな広がりを見せている。

(2) 当該施設職員の人材養成の取り組み

運営に関わる人材の育成を目的に、外部研修会に積極的に参加し、劇場として継続的に組織強化に取り組んでいる。

- ・全国公立文化施設協会「アートマネジメント研修会」「技術職員研修会」
- ・一般財団法人「ステージ・ラボ」 ・新国立劇場主催「舞台技術運用セミナー」

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加を取りやめ(または研修会が中止)

(3) 当該施設職員以外の人材育成の取り組み

当館職員が企画・制作・運営のスキルを活かし、各地で行われる研修会等において講師を務め、また、その経験を当該施設運営に活かすべく一般行政職員にフィードバックしている。

- ・大学への講師派遣

公立学校法人長野大学「メディア芸術論」に非常勤講師として職員を派遣(平成30年度から継続)

- ・地域創造への講師派遣

「ステージ・ラボ」や公共ホール音楽活性化事業へ講師、コーディネーターとして職員を派遣(平成26年度から継続)

(4) 寄付金等の外部資金の獲得に向けた取り組み

基本理念に賛同する企業から広く寄付を募る「サントミュージアパートナーズ」事業は、開始当初(平成29年度)3社の協賛企業からスタートし、令和2年度には7社、令和3年度には15社まで増加。今後も賛同企業を拡大させつつ、寄付だけではなく各企業の特徴を活かした活動の「連携」や「協働」にもつなげていきたいと考えている。

また、入場料収入や貸館収入などの事業収入、補助金や寄付金などの外部資金が、事業費の財源に占める割合が30%以上で、全国平均を大幅に上回る状況にある。

